



C-04 アレルギー性肺疾患

アレルギー性ぜんそくはアレルギー性気管支肺アスペルギルス症

アレルギー性気管支肺アスペルギルス症

【概要】

アスペルギルスとはカビ(真菌)の一種です。通常、このカビはヒトに感染症を引き起こすことはありませんが、免疫力が著しく低下している場合や、肺の中に空洞を生じるような病気を有している場合、あるいはこのカビに対する過剰反応の体質(アレルギー)を有している場合にはいろいろな病気を引き起こします。そのなかでアレルギーによって引き起こされる病型がアレルギー性気管支肺アスペルギルス症です。アスペルギルスは何種類かありますが、アレルギー性気管支肺アスペルギルス症のほとんどはアスペルギルス・フミガートスという種類のカビです。なお、きわめてまれですがアスペルギルス以外のカビが原因でおこる類似の病気も報告されています。

【症状】

この病気の特徴は、患者さんの多くがもともとぜんそく(気管支喘息)を患っていることです。ぜんそくは吸入ステロイド薬を主役とする定期的な治療を受けることで良好にコントロールできることが多いのですが、アレルギー性気管支肺アスペルギルス症でのぜんそくは難治性です。進行すると常に息切れ・呼吸困難を示すようになります。

ぜんそくは吸入ステロイド薬を主役とする定期的な治療を受けることで良好にコントロールできることが多いのですが、アレルギー性気管支肺アスペルギルス症でのぜんそくは難治性です。進行すると常に息切れ・呼吸困難を示すようになります。

【検査】

胸部エックス線検査では肺炎のような陰影がみられ、胸部CT検査ではさらに気管支(空気の通り道)のなかにたんが大量に詰まっていたり、気管支がいびつに拡張していたりする異常がみられることがあります。このような異常を伴う難治性のぜんそくの患者さんでは血液検査でアスペルギルスに対するアレルギーがないかどうかを調べ、それが裏付けられれば診断は確定します。

【治療】

アレルギー性気管支肺アスペルギルス症は治療が遅れたり、治療が不十分だと気管支や肺の奥の部分に線維化とよばれる不可逆的な変化が起こ

気管支の中に
たんが詰まっている



気管支の拡張

り、最終的には酸素療法が必要な呼吸不全という状態になります。診断がついたら従来のぜんそく治療に加えて速やかにステロイド薬の内服を開始し、しかも内服は長期間続ける必要があります。ぜんそく症状や画像上の異常、血液検査の異常が改善すれば少しずつステロイドの服用量を減らし

ていきます。これはステロイド薬を長期服用することによるさまざまな副作用を軽減するためですが、病状が再発することもあります。最近では抗真菌薬を併用してステロイド薬を順調に減らしていく方法も試みられています。

MEMO

日本呼吸器学会では学会ホームページにて「市民のみなさま向け」に様々なコンテンツを公開しています。ぜひご覧ください！



呼吸器の病気

Respiratory disease

『疾患別』に症状や、診断・治療方法を解説しています。

呼吸器



Q&A

『症状から』対応方法などをQ&A形式でお答えします。

※ここに書かれている内容は、あくまで一般的なものであり、必ずしも貴方の病気にあてはまらない事もありますので、この内容を参考にし、呼吸器の専門医の診察を受けてください。

日本呼吸器学会
ホームページ

www.jrs.or.jp/